

耳公民館だより

第60号 令和6年8月



(すくすくと育つ稲：和田)

猛暑、酷暑など暑さを表す言葉を日常よく目にするようになった近年の夏です。「炎暑」や「極暑」という表現もあるようですが、いくつも並べたところで涼しくなるわけでもなく、あの手この手で乗り切るしかありません。炎天下の田んぼでは、たくましく生長した稲が実りの秋を待っています。刈り取りが始まる頃には、残暑と言える天候になっているのでしょうか。

木のめくもい ベンチ作り 8/4(日)

耳公民館の定番、家族工作教室。今年もたくさんの参加があり、くぎを打つ軽やかな音が図工室にひびきました。



立ち寄り型講座「ふらっと」

① インクの花



- ・参加無料、時間は30分程度
- ・館長不在の場合はできません。事前にお問い合わせいただくと確実です。

③ 竹のやじろべえ(飛行機型)

② 紙コップ風鈴



新メニュー
です！



館長のつぶやき

暮らしに深くかわっています。普通には気づきにくい盲点のことも言い、すきま産業によるアイデア商品がたくさんあります。心のすきにつけ込む詐欺行為や人間関係のすきま風はありがたくないですが、すきま時間を活用する在宅副業などは時代の流れで、公民館にも関わりのある分野です。

耳公民館も施設面では課題が多いですが、すきま産業のようアイデア勝負に活路を求めています。お弁当のすきまを埋めるときの色合いや栄養価を考えるように、悩ましくもあり楽しくもあります。

すきま

手作業で作りあげられていくベンチ。紙やすりで磨く仕上げの工程は参加者の皆さんの達成感や充実感が見えるようです。

ベンチの座板はきっちり詰めるのではなく、ほんの少しだけ間隔を空けます。これが空気の流れを生かす「すきま」の知恵です。腰かけた時のさわやか感や水に濡れた場合のかわきやすさなど大事な役目を果たします。

日本古来の家にはあちこちにすきまがあつて、寒いけれども外気が出入りすることで建築資材が長持ちしたという話があります。築百年の古民家なんて言いますね。またエアコンなどがない時代は窓や戸の開け閉めで換気をしたので、風にのって田畑や庭の植物の香り、虫や鳥の鳴き声が入ってきて屋内でも季節を感じたものです。今の日本の住宅事情では、そんな風情は貴重なものになりつつありますが。

